



中り
川よ
荒だ

青い雲



教育目標

「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」
目指す生徒像 「あいさつ・がまん・あとしまつ」のできる生徒

村上市立荒川中学校
令和6年度第1号
令和6年4月14日発行

笑顔と希望にあふれる学校づくり

校長 西村 諭

校舎脇の桜が咲き始め、春の訪れが感じられます。新入生七五名を迎え、全校生徒二〇五名で令和六年度がスタートしました。教職員も大きく変わり、私を含めて十二名が赴任して参りました。新しい出会い、人を成長させるチャンスとなります。学校に清新な風を吹き込ませ、教職員二十九名の英知を結集し、生徒の「笑顔と希望にあふれる学校」づくりに努めて参ります。今年度も、学校教育への御理解と御協力をお願いいたします。

学校生活のスタートにあたり、四月九日の入学式で、教育目標「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」の意味を、「自分で考え」の言葉に注目して、生徒と考えました。以下、式辞の一部を抜粋します。

皆さんは「かむかう」という言葉を聞いたことがありますか。「考える」という言葉の基になる昔の言葉です。最初のかには意味はなく、むは身「身体」のこと、かうは交う「お互いに・・する」ことです。つまり、考えるは自分が身をもって相手と交わることであり、相手のよい考えをまねたり、人の考えを参考に自分の考えをもったりすることといえます。考えることのスタートは、人とのつながりから生まれていくと捉えることができます。

教育目標の達成により、皆さん一人一人の学ぶ力

豊かな心、健康・体力が養われ、その力は夢を叶える力となります。そして、その力を、ふるさと荒川や社会の未来に向けた創り手となって生かしていくことになるのです。

「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜くこと」は、決して自分一人が行って、それで終わりということではなく、「人との関わりを通して、自らの考えを深めて豊かにし、身に付けた力を周りの人や地域社会のために生かす尊い行為」であることを意味しているのです。

今年度、創立七八年目となる当校は、教育目標と行動目標「あいさつ・がまん・あとしまつ」（旧荒川町の時から、目指す生徒の姿として大切にしてきているもの）の達成に向けて努力し、素晴らしい伝統を創り上げてきました。また、近年は、官民学の取組「荒川チャレンジ活動」に参加させていただいております。生徒は、地域貢献活動を通して、地域の魅力や地域課題について学びを深めています。

学びは生涯続くものであり、学校教育で完結するものではありません。地域と連携・協働し、地域や人とのつながりを大切にして教育活動を展開する、地域とともに歩む学校でありたいと考えております。

一年間、どうぞよろしくお願いいたします。